

製品資料

位置情報連携型AI観光案内 Webアプリ運用サービス

「Leapfy_」

来訪・案内・体験・再訪・分析を、
ひとつのWebアプリでつなぐ観光DXサービス

新役務（サービス）

専用アプリ不要

多言語・24時間

Webアプリ : visionservice.io/tourist-information-center



観光客の行動を、1本のデジタル体験として設計

QRアクセスからチェックイン、AI案内、3D体験、再訪促進、分析までをシームレスに接続します。



既存の交通・観光接点にQRで実装

出典：ご提供の「TECH BEAT Shizuoka 2026資料」

利用者にとって

- 「今いる場所」から必要な案内にたどり着ける
- 写真・3D・バーチャルツアーで観光資源を直感的に理解
- 特典とバッジが次のチェックインの動機になる

導入者にとって

- 案内業務の補完と24時間・多言語対応
- 地点・人数区分・時間帯・言語・質問傾向を把握
- 蓄積データを地域情報の更新と周遊施策へ活用

汎用SaaSを「部品」として、独自の体験・データ・運用を統合

Chatbase単体の再販ではなく、地域ごとの設計・構築・運用を一体で提供する新役務です。



チェックインの時点で、同意に基づき位置情報を取得

人数ボタンの選択を起点に、必要最小限の来訪データを取得し、案内と分析へ連携します。

焼津市 観光案内 (Tourist Information)

本日は何名でお越しですか？（人数を選ぶと位置情報を1回だけ取得してチェックインします。匿名・非公開）

市内のおすすめスポットや交通・食・体験情報をご案内します

メニュー翻訳やルート相談もお気軽にどうぞ
3秒チェックインでスムーズにご案内！

- ✓ モデルコース・時期別の見どころ
- ✓ 食事・カフェ・海産物のおすすめ
- ✓ バス・タクシー・徒歩ルート相談
- ✓ レンタサイクル案内

1名

2名

3～5名

団体

もう一度チェックイン

実際のWebアプリ画面

画面取得：visionservice.io/tourist-information-center

1 人数区分を選択

「1名／2名／3～5名／団体」から選択。入力負担を抑え、分析可能な粒度を確保。

2 位置情報の許可を確認

ブラウザの標準許可画面を通じ、利用者が明示的に許可した場合のみ現在地を取得。

3 チェックインを記録・連携

緯度・経度・測位精度、時刻、端末言語、人数区分等を記録し、案内・分析へ接続。

取得・活用する主な情報

緯度・経度

測位精度

時刻

端末言語

人数区分

地点ID

プライバシー設計

- 氏名・メール等の直接識別子は取得しない
- 位置情報を許可しなくても一般案内は利用可能
- 利用目的を画面上で明示し、必要最小限に限定

観光フォトと段階別バッジで、複数回のチェックインを促進

チェックイン成功を「即時の参加価値」に変え、再チェックイン・周遊・再訪につなげます。

1 | 観光フォトを解放



チェックイン前

観光フォト例

チェックイン成功を起点に、焼津の風景・食・文化を伝える写真を表示。端末保存も可能です。



ご提供資料内のリワード画面例

2 | 回数に応じてバッジを付与



初回後、2・3・5・7・10・15・20回などの節目でバッジを解放。



バッジ履歴は利用端末内に保存

「次の地点でもチェックインしたい」という継続動機をつくり、周遊施策へつなげます。

設計の狙い

即時性

その場で特典が出る

継続性

回数が積み上がる

地域性

写真・名称を地域別に編集

分析性

回数・地点の変化を把握

独自ナレッジと応答設計で、現在地に合う観光案内へ

Chatbaseをチャット基盤として利用しつつ、案内品質を左右する中身と連携機能は独自に設計します。

AI案内の独自要素

01 地域ナレッジ

観光・食・交通・体験情報を独自に収集・構造化

02 System Instruction

回答範囲、多言語、参照方針、誤回答抑制を制御

03 追加Widget

位置情報・3D・外部表示を会話と同期

04 継続更新

地域の最新情報と会話傾向を反映して改善

基盤：Chatbase（一般SaaS）

現在地と会話を同期する流れ



対応する利用場面

モデルコース

滞在時間・季節・現在地に合った回遊案内

食・買物

海産物、飲食店、土産、メニュー相談

移動

徒歩・バス・タクシー・レンタサイクル

多言語

日本語・英語・中国語・韓国語等で応答

会話画面から、GLB 3Dモデルと3Dバーチャルツアーを表示

文章だけでは伝わりにくい観光資源を、回転・拡大縮小・空間体験で分かりやすく紹介します。



音声による入出力も可能
ユーザーはチャットと「会話」しながら
移動できます。



表示できる体験

3D

GLBモデル

回転・拡大縮小し、
複数角度から確認

360

3Dバーチャルツアー

施設・空間を遠隔から
体験し来訪意欲を喚起

専用アプリ不要。駅・交通・観光施設・イベントへQRで展開

既存の観光接点に設置し、旅行者がその場で読み取って利用できます。



焼津駅
TECH BEAT資料より



交通接点へのQR掲出
TECH BEAT資料より



観光案内所での掲出
TECH BEAT資料より



来訪者による利用
TECH BEAT資料より

1

設置

QRポスター・ステッカーを
既存の案内導線へ

2

起動

ブラウザで即時利用
インストール・会員登録不要

3

支援

スタッフ案内と併用し
多言語・時間外を補完

4

拡張

地点ごとにQR・リワード・
ナレッジを切替

実装先例：観光案内所／焼津さかなセンター／焼津駅前足湯／自主運行バス／宿泊施設（汀家様）／イベント会場 等

来訪データと会話ログを、観光施策の改善に還元

「どこで・いつ・誰と・何に関心があったか」を可視化し、情報更新と周遊施策に活用します。

チャットボット利用状況：ダッシュボード取得データ

ダッシュボードより、ユーザーの利用時間帯および関心トピックの傾向を確認。



【利用時間帯】午前中がピーク
10:00～11:00台に利用が集中。
次いで12:00台の利用が多い傾向。



利用時間帯・関心トピックの可視化例

出典：TECH BEAT Shizuoka 2026資料

点から線へ：観光動線のデジタル可視化



Google My Mapsの活用

LP閲覧データとチャットボットログを掛け
合わせ、ユーザーのアクセス地点を視覚的
にマッピング。

主要スポットの連携

焼津さかなセンター、汀家、観光協会など、
これまで独立していた拠点の位置関係
と回遊状況を直感的に把握。

今後のプロモーションへの応用

複数回アクセスしたユーザーの動きを追跡
することで、周遊ルートの最適化や新たな
看板設置位置の戦略的決定が可能に。

位置情報の地図可視化例

出典：TECH BEAT Shizuoka 2026資料

主な分析項目

地点

時間帯

人数区分

端末言語

チェックイン回数

質問テーマ

取得

チェックイン・会話

可視化

地点・属性・関心

改善

案内・ナレッジ・導線

再検証

施策後の変化を確認

データを集めるだけで終わらず、地域情報の更新と観光施策のPDCAまでを運用役務に含めます。

企画から継続運用・分析までを一体で提供

地域・施設ごとに必要機能を組み合わせ、実証から本格運用へ移行できる形で提供します。



提供形態

- 申請者が契約主体となり、役務全体を一貫して提供
- 初期設計・構築費＋月次運用・分析費（個別見積）
- Webサーバ、クラウド、ストレージ等を利用し、専用端末は原則不要

地域別に差し替え・拡張できる項目

地域ナレッジ

回答ルール

チェックイン地点

観光フォト

バッジ名称・条件

GLB・ツアー素材

焼津市での実証を標準導入手順へ整理し、自治体・観光協会・施設へ横展開可能。

「チャットボット+αの」、地域観光の運用サービス

比較項目	一般的なChatbase利用	Leapfy_（申請する新役務）
情報の中身	利用者が個別に登録	地域ナレッジを独自収集・構造化し継続更新
回答制御	汎用設定	独自System Instructionで範囲・多言語・誤回答抑制を設計
位置情報	標準機能の範囲	チェックイン／現在地取得と回答を独自コードで同期
参加促進	原則なし	写真リワード・回数別バッジ・演出を統合
表現	テキスト中心	独自WidgetからGLB・3Dバーチャルツアーを表示
提供範囲	SaaS利用	企画・構築・公開・更新・分析・改善まで一体提供

汎用基盤を活用しながら、独自のデータ・制御・機能・運用を統合して提供する「新役務」

焼津市で生み出す価値と、実証で確認する指標

観光案内の利便性、周遊・再訪、データ活用、運用負担の4領域で効果を検証します。

1 案内利便性

24時間・多言語で、
現在地に合う情報へ

主な確認指標

AI利用数／質問テーマ／対応言語

2 周遊・再訪

写真・バッジ・3Dで
次の行動を促す

主な確認指標

地点別チェックイン／反復回数／バッ
ジ解放

3 データ活用

来訪と関心を可視化し
施策改善へ

主な確認指標

時間帯／人数区分／位置分布／関心語

4 運用効率

案内業務を補完し
情報更新を標準化

主な確認指標

問い合わせ傾向／更新件数／現場フィ
ードバック

Leapfy_ は、焼津の情報を「案内する」だけでなく、来訪を記録し、体験を豊かにし、次の周遊施策へつなげる運用基盤です。